

第6学年国語科 学習指導案

指導者 島宗 勇輝

R 6 研修センター長期研修

- 1 単元名 自分の考えが伝わるように紹介文を書こう（おすすめパンフレットを作ろう）
～ようこそ！那珂湊第三小学校へ～
- 2 本単元の目標
 - (1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
 - (2) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) ウ
 - (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」
- 3 本単元における言語活動
新入生保護者説明会に向け、学校のよさを伝えるための紹介文を書く。
(関連：[思考力、判断力、表現力] B (2) ア)

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 ((2) イ)	① 「書くこと」において目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (B (1) ウ)	① 粘り強く、自分の考え方が伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって紹介文を書こうとしている。

5 単元について

(1) 教材観

本教材「おすすめパンフレットを作ろう」は、日常生活の中から話題を集めて相手や目的、意図に応じて、自分の考えが伝わるように紹介文を作成する教材である。来年度入学する新入生に向けて、自分が伝えたい学校のよさについて考えることで、目的意識や相手意識を明確にすることが期待できる。また、紹介文を書くことを通して、目的や意図に応じて、事実と感想や意見を区別して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することの重要性を学ぶことができる教材であると考えられる。

(2) 児童観

本学級の児童に対して、事実と感想や意見を区別して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力に関する実態調査（令和6年*月*日第6学年*組*人）を行った。調査では、自分が大切にしたいことについて400字程度で紹介する文章を三段落構成で書くという条件を設定した。その結果、事実と感想や意見を書くことができた児童は*人であった。事実と感想や意見を区別して書くことができない児童を分析すると、事実と感想や意見を混同している児童が*人、事実のみ書いている児童が*人、感想や意見のみ書いている児童が*人であった。このことから、目的や意図に応じて、事実と感想や意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があることが分かった。そのため、事実と感想や意見との関係を捉え、材料を区別できているかチェックリストを活用しながら友達と確かめ合い、振り返りから課題を捉え、課題の解決に向けて学習を調整し、よりよい表現になるよう粘り強く書く活動が必要であると思われる。

(3) 指導観

本単元では、新入生保護者説明会に向けて、学校のよさを伝える紹介文を書く言語活動を設定する。まず、紹介文を書く相手や目的を確認し、伝えたいと思う学校のよさについてイメージを膨らませる。次に、モデル文を比較することで、目指す紹介文の姿を明確にし、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように紹介文を書くことに向けた自分の課題をもつ。さらに、集めた材料を整理し、事実と感想や意見との関係を捉え、材料を区別できているか確かめながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫していく。これらの活動は、探究的な学びのプロセスにおいて、児童が振り返りで得た課題を次の学習に生かすサイクルを繰り返しながら、学習状況や進度に合わせて学習活動に取り組むことで学習を調整し、よりよい表現になるよう粘り強く書くことで、課題解決へと迫っていく。以上のような学習活動を行えば、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く力を育成することができるのではないかと考える。

5 単元の指導計画（9時間扱い）

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1	目標：紹介文を書く相手や目的を把握して、単元の見通しをもつことができる。 1 学習課題を確認する。 課題 自分の考えが伝わる紹介文を書くために大切なことは何だろう。 2 紹介文を書く相手の気持ちに立って、どのようなことを伝えたらよいか考える。 3 自分の書いたウェビングマップから、紹介文で伝えたいことを考える。 まとめ 相手や目的を意識して伝える内容を考えてよい。 4 学習計画表に本時の学習の振り返りを書く。				- 学校のよさを伝えるパンフレットを新入生保護者説明会で配ることを伝え、学習への興味関心を高められるようにする。 - 新入生が入学を楽しみにできるようにするという目的を確認し、新入生の気持ちになって楽しみにしていることや不安なことなどを想起できるようにする。 - 自分の考えがもてない児童には、写真資料を見たり、友達と対話したりして学校のよさを想起できるように促す。 - 学習内容や学び方を示す「学びの地図」を提示し、単元の見通しをもてるようにする。 - 本時の振り返りを記述する際は、観点に沿って振り返るよう促し、課題を得て、次の学習に生かせるようにする。 思①：相手や目的を意識しながら伝える内容を考えることができているか見取り、つまづいている児童には、写真資料を参考にしながら考えるよう促す。 【ワークシートの記述】 態①：紹介文を作成する過程について見通しがもてているか見取り、つまづいている児童には、「学びの地図」をもとに見通しがもてるように助言する。 【観察、振り返りの記述】
	2	課題 自分の考えが伝わる紹介文を書くためのコツは何だろう。 - モデル文を比較して、特徴を分析し、事実と感想や意見の区別の仕方に気づく。 - 各自が事前に実態調査で書いた文章とモデル文を比較し、				2つのモデル文を提示する。 - 課題を見出す際には、事前に実態調査で書いた文章とモデル文を比較し、事実と感想や意見が区別されて書かれているか確かめるよう促す。 - 事実と感想や意見を区別する際には、材料をよく見直して内容ごとにまとめることが大切だと助言する。 思①：紹介文を書く際には、材料をよく見直して事実と感想や意見を区別することが大切だと捉

		自分の文章をよりよくすることに向けた課題を見出す。 ・事実と感想や意見の区別の仕方について確認する。 まとめ 事実と感想や意見を区別して書くと自分の考えが伝わる紹介文になる。 ・学習を振り返る。	○		え、つまずきが見られる児童には、モデル文から事実と感想や意見を区別する方法を捉えられるようにする。 【ワークシートの記述】 知①：多様な材料をまとめたり、一定のきまりを基に系統化したりして情報と情報を関係付けられているか見取り、つまずきが見られる児童にはモデル文や具体例を参考にしながら関係付けられるように促す。 【ワークシートの記述】
2 【整理・分析】 のびのびマイペースタイム	3	課題 自分の考えを伝えるために、何をどのような方法で学べばよいだろう。 ～学びのガイダンス～ ・前時までの学習を振り返りながら、自分の課題に応じた学習の進め方について確認する。 ・思考ツールや文章構成シートの使い方を確認する。 まとめ ・事実と感想や意見を区別することや、自分の考えが伝わるように文章を構成することが大切だ。 ・自分の課題解決に向けて、目的に合った方法で学んでいく。 ・学習を振り返る。			・3時間目から6時間目までは児童が、自分の学習状況や進度に応じて学習活動を設定できる機会を設ける。 ・必要に応じて材料を追加したり、交流したりするなど自分で活動を設定するよう促す。 ・思考ツールと文章構成シートの使い方について説明し、自ら学習を進められるようにする。 ○ 態①：事実と感想や意見を区別する過程において、見通しをもちながら自分に合った方法で学習を進められているか見取り、つまずきが見られる児童には学習計画表を基に考えるよう助言する。 【観察、振り返りの記述】
	4	課題 事実と感想や意見を区別するにはどうしたらよいだろう。 ・集めた材料を思考ツールに整理しながら事実と感想や意見を区別していく。 ・ワークシートを提示しながら、事実と感想や意見の区別の仕方についてよい点や修正点を伝え合う。 まとめ 材料をよく見直して内容ごとにまとめると事実と感想や意見が区別できる。 ・学習を振り返る。	◎	○	・事実と感想や意見を区別する際には、前時で用いたモデル文や思考ツールの具体例を参考に、内容をよく見直して判断することを再確認する。 思①：材料を整理しながら事実と感想や意見を区別しているか見取り、つまずきが見られる児童には、友達との対話を通して解決できるようにしたり、前時で用いたモデル文や具体例を参考にしたりするよう促す。 【ワークシートの記述】 知①：情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っているか見取る。 【ワークシートの記述】

5	検 証 授 業	目標：紹介文を書く目的や意図を再確認し、見通しをもちながら自分の課題に応じて学習を調整することができる。 1 学習課題を確認する。 課題 この後の学習に必要なことは何だろう。 ～これまでの学習の成果を確認しよう～ 2 相手や目的、意図を再確認し、チェックシートを用いながら同じテーマの人とペアでよい点や修正点を伝え合う。 3 自分の学習状況や進捗を確認し、学習活動を選択する。 ・事実と感想や意見を区別する ・文章の構成を考える ・表現を工夫する まとめ 学習状況や進捗を確認しながら見通しをもって学習を調整することが必要である。 4 学習を振り返る。			・全体の学習内容を再確認し、自分の学習状況や進捗に応じて、活動を設定するよう促す。 ・ペアでよい点や修正点を伝え合う際には、チェックシートを用いて観点を明確にすることで交流の目的を意識できるようにする。 ・構成を終えた児童には、モデル文を参考に、自分の考えが伝わる紹介文にするためにさらに工夫できる点はないか考えられるようにする。 思①：自分の考えが伝わるように相手や目的、意図に応じて表現を工夫できているか見取り、つまりきが見られる児童には、モデル文に用いられている呼びかけやオノマトペを参考にするよう助言する。 【ワークシートの記述】 ○ 態①：見通しをもちながら、自分の課題に応じて学習を調整しようとしているか見取り、つまりきが見られる児童には、学びの地図や比較したモデル文を参考にするよう助言する。 【観察、振り返りの記述】
6		課題 自分の考えが伝わるように紹介文を構成するには、どうしたらよいだろうか。 ・状況に合わせてワークシートを見せ合いながら思考ツールに集めた材料を、紹介文を書く際の構成（はじめ・中・終わり）に沿って文章構成シートにまとめる。 まとめ 伝えたい内容を明確にし、内容に応じて筋道の通った構成にするとよい。 ・学習を振り返る。			・モデル文や具体例を参考にしながら、自分の考えが伝わるように伝えたい内容を明確にし、内容に応じて筋道の通った構成になるよう促す。
3	【まとめ・表現】	7 課題 どのようなことに注意しながら紹介文を書けばよいだろう。 ・自分が整理した材料から、伝えたい内容について簡単にまとめて見出しを書く。 ・整理した材料を使い、構成に沿って紹介文を書く。			・見出しを書く際には短く簡単に表現するよう助言する。 ・文章構成シートにまとめた材料を用いて、紹介文を書く際には、モデル文を参考にしながら、文末表現やつながり言葉に注意して書くよう促す。 思①：自分の考えが伝わるように紹介文を書くことができているか見取り、つまりきが見られる児童には、思考に関わる語句につ

し っ か り フ ィ ニ ッ シ ュ タ イ ム		まとめ 紹介文を書くには、整理した材料をもとに見出しを考え、文末表現やつなぐ言葉に注意しながら書くとよい。 ・学習を振り返る。			いて、既習事項を確認しながら助言する。 【ワークシートの記述】
	8	課題 どのような視点で、紹介文を見直せばよいだろう。 〔グループでの活動〕 - 見出しを隠して友達に伝えたい内容が分かるか確認し、チェックリストの観点に沿って友達や先生と対話して文章を見直す。 〔個人での活動〕 - 伝わりやすい表現に直す。 まとめ 紹介文を見直す際には、文章全体の構成や書き表し方に着目するとよい。 ・学習を振り返る。	◎		思①：目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 【ワークシートの記述】
	9	課題 友達の紹介文のよいところはどこだろう。 - ICT 機器を用いて友達の文章のよい点を伝え合う。 - どのように書けば自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるかまとめる。 まとめ - 事実と感想や意見が区別されていると伝わりやすい。 - 相手のことを考えて言葉を使っていると考えが伝わる。 - オノマトペや呼びかけを使っていると興味深く読むことができる。 ・単元全体を振り返る。 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するためには、相手や目的、意図に応じて事実と感想や意見を区別し、書き表し方を工夫するとよい。		◎	- よい点を探す際には、モデル文の比較で用いたワークシートを参考にしながら観点に沿って探すようにする。 - 友達の紹介文のよい点を見つけられない児童には、モデル文との共通点を見つけてほめるよう促す。 ◎ 態①：粘り強く、自分の考え方が伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって紹介文を書くことを次の学習に生かそうとしているか見取る。 【観察、振り返りの記述】